

平成 29 年度総合教育会議議事録

1. 日 時 平成 29 年 10 月 5 日(木)
2. 場 所 豊浦町中央公民館 大会議室
3. 開 会 午後 1 時 30 分
4. 閉 会 午後 2 時 45 分
5. 出席者 豊浦町長 村井 洋一
豊浦町教育委員会教育長 佐々木浩治
豊浦町教育委員会教育委員 本所 忠夫
豊浦町教育委員会教育委員 山下 圭一
豊浦町教育委員会教育委員 相川 里美
豊浦町教育委員会生涯学習課長 竹林 善人
豊浦町教育委員会学校教育係長 日下 茂
豊浦町教育委員会社会教育係長 ニツ森博幸
豊浦町役場総務課長 半澤 豊
6. 議 事 (1) 小・中一貫教育について
(2) 小・中学力状況報告について

竹林生涯学習課長	平成 29 年度の総合教育会議を開催いたします。まず初めに町長よりご挨拶をお願いいたします。
村井町長	<p>この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しながら、首長が教育行政に果たす責任や役割が明確になったものでございます。</p> <p>併せまして、教育委員会と連携協議、調整することによって、教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることとなっています。</p> <p>豊浦町におきましては、特色ある今日の議題にもありますけれども、小中連携教育、また、小中一貫教育を実践しておりまして、このことによりまして、教育する側、また教育される側、双方の不安の解消や、また生徒間での優しさや思いやり等心の教育が育まれていると思っております。</p> <p>子ども達が少しずつ大人になっていく多感な大事な時期でありますので、今後とも教育行政にお力増いただきますようお願い申し上げまして、簡単ではありますが開会にあたってのあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。</p>
竹林生涯学習課長	本会議の議事進行については、町長が行うこととなっておりますので、よろしくをお願いいたします。
村井町長	それでは、お配りしている議題から順次進めて参ります。第 1 番目について教育長の方からお願いします。
佐々木教育長	<p>皆様ご苦労さまです。それでは本日の議題となっております。</p> <p>豊浦町の小中一貫教育についてご説明いたします。</p> <p>－ 別添資料を説明 －</p> <p>以上で豊浦町の小中一貫教育の説明を終わります。</p>
村井町長	はい、ありがとうございます。それでは、説明が終わりましたので、皆さんから意見やこの部分はどうなっているのか、課題等について聞きたいことがありましたら、ご意見いただきたいと思っております。
荒井教育委員	改めて町長がご挨拶されたように、この総合教育会議っていうのは、国の方針が変わって、子供たちを 9 年間にわたって、長い目で育てていこうということで町と教育委員会が共有してやっていこうというもので、豊浦町の特徴を聞いたら、こういう風にして小学校の 6 年間と中学校の 3 年間の 9 年を一貫して育てていこうという内容。説明を聞いていたら、小学校から中学校へあがる時にどこの学校でもギャップがあって、なかなか、自分が中学生になるときにどうだったかなと思いたしたら、部活で野球するから丸坊主にしなくちゃなら

	<p>ないので丸刈りにして、中学校にいったら髪を切れといわれるから、小学校6年生のときに初めて丸坊主にした思いがある。</p> <p>今話聞いてたら、小中の先生方の交流というものは、昔からそうないから中学生の先生は、小学校の子ども達のこと余りわからないし、小学校から送り出した後、中学校でどんな風にされるかということは、先生方は知らないというのが現状なの。</p> <p>昔は、小・中の先生方が野球例えば、役場チームとか教員チームとか小・中の先生方が一緒になってやっているのを見て、仲がいいのかなと見ていた部分もあるんですね。</p> <p>そういうのが今ないから子ども達もずっと中学校のときビクビクするのかなって。でも、今話を聞いていたら、こういう交流を続けていくことによって、中学生ことをお兄ちゃん、お姉ちゃんとするし、上のほうも、小学生を導いていくリーダーとして自覚するようになる。やっぱりこういうことを続けていくのは大事なんだと。これを豊浦に当てはめると、大岸や礼文の子が中学校に入るときには随分やっぱり集団に入るための馴染みには相当時間がかかるのではないかなと思うから、統合すればいいんでないかと思うけど、地域のコミュニティという部分の問題もあり、それも難しい。</p> <p>なかなか人を育てるっていうのは大変だなと、説明を聞きながら感じました。そんな感想でした。</p>
村井町長	<p>続きまして、本所委員何かありますか。</p>
本所教育委員	<p>今、荒井委員さんがほとんど言ってしまったので、私の出番がなくなってしまったのだけれども。やはり、小学校の子ども達が中学校に上がる時やっぱりその時のコミュニケーションがなかなかそう簡単にはいかないのかなと思う。6年生はやっぱり、お兄ちゃんとお姉ちゃんだと、小さい子供たちとのコミュニケーションができていたのが、急に今度中学校へ行くとそれとは逆の立場になるそういう中で、豊浦はある程度いろいろとやっているのだから、かなり違うんじゃないのかと。これはいいことだと思う。あとは、先生方がやっぱり独自の俺は教師だという、これは言い過ぎかもしれないがそういう気持ちがあったのかな今この段階では全部がうまくいっているのかなと。一生懸命にやっている途中かなとこれは継続してやっていただきたい。</p>
村井町長	<p>相川委員さんはどうですか。</p>
相川教育委員	<p>荒井さんがほとんど言ってしまったのであれなんですけど。家の子ども達を見ていると、やっぱり交流学习をしているので中学校に行っても先輩たちと仲良くやれている雰囲気はありました。</p> <p>もう少し時間があれば、交流する回数が多い方がいいんじゃないかな</p>

	という意見です。
荒井教育委員	今、中学生だよね。
相川教育委員	はい、そうです。せっかくなので、もうちょっと小中が一緒にとか、入れ替え授業とかがあればいいと思います。
村井町長	山下委員は
山下教育委員	<p>今の進めていく方向の中で、現実的な問題がどんなことが起きるのかなと。実際小学校中学校の先生方の授業の持ち時間が決められやらなきゃいけないことの中でのこういう取り組む新たな時間というものが、実際今いる先生の数の中でやり切れるのだろうか。</p> <p>実際よく、先生方の残業の問題が取りざたされている中でこれ以上のサービスなり、教育ができるのかってということに対してのそれに必要な部分の、例えば増員ができるのかとか、先生方の待遇も含めたことも併せたときやらなきゃいけないことと、それに対しての必要な部分も併せて取り組んでいけるのだろうかというちょっとそんなことに疑問を持ちました。</p>
村井町長	今後の心配などを含めてということ。
山下教育委員	やらなきゃいけないことをわかっていながらそれをどうやって実現していくのかということです。
佐々木教育長	<p>いくつか問題が出ましたけど、小学校と中学校の違いですね。どうして小学校から、中学校へ行くときに中一ギャップが起きるのかというと、ここには学校文化というものがあり、小学校中学校にそれぞれの文化の違いがある。例えば、小学校というのは担任制ですよ。1人の先生が朝から帰りの学活まで、ずっと1人の先生が教えている。先程説明しましたけれども、学級王国っていうのを作ってしまう。ところが中学校へ行くと教科によって先生が違うといういろんな先生が入ってきますよね。小学校というのは、一人の先生が一人を見るので、どっちかっていうとこの子は、こういう子だという一面的なものしか見れない。ところが中学校へ行くといろんな先生が1人のことを見るので、多面的に見て結構、この子はこういう子だけれども、こういう面もあるよという話し合いができる以外にそういうのでいい面もあるんです。</p> <p>それと、例えば生徒指導で何かある小学校では割とあんまり突き詰めて指導しないんです。どちらかという、緩やかな指導。ところがやっぱり中学校では、厳しく指導する。そういうことで中学校へ行くと何か非常に怖いという特に生徒指導の先生は怖いというイメージがあり、そういう指導の違いというのがあります。</p> <p>例えば宿題の与え方でも、小学校では一人の先生が大音量とかを考え</p>

	<p>ながら教えていく、中学校は教科によって先生が違うので、いろんな教科の宿題がその日によって、宿題の量がバラバラになってくる。</p> <p>そういう面では、ちょっと調整を図らなければならない。いろんな面でやっぱり違いが出てくるというのがあるわけです。そういうのが、中一ギャップということが出てくる。</p> <p>それと、山下さんが言われていた先生方が忙しくて私もそう思います。学校というのは、いろんなことを本来、家で行わなければならないなどもやっぱり学校に任される面が例えば新しい道徳について勉強しなければならない新しい学習指導要領についての方もやらなきゃいけないそういうことはですね、学校では次から次と今もう学校変革ですから、教育はどんどん変わってきているので、それを先生方が全部吸収して新しい教育っていうのを作って行かなきゃいけないといういろんな問題が出て来るんです。</p> <p>こういう小中一貫教育と小中連携しなさいそのときに、本当に話し合う時間がなかなか取れないんです。それと、授業についてもびっしりやらなきゃいけない、授業時間。そういう中で、なかなか会議をする時間がない。忙しい中で、そういう時間を作らなければならないそれをどうやってこの後確保していくのかっていうのがあり、交流の回数をもっと増やしてほしいという希望も、そこがなかなか実現できないというのがあります。</p>
荒井教育委員	<p>こういう一貫教育をやるために時間の多くなると先生も不足することが、それなりに懸念されて、数が足りているのかと言っていたけど、決まりがあるんだね。その規模によって、先生の数が。余計な先生までは雇うことはできない。</p>
佐々木教育長	<p>町でこの先生はどうしても必要だからとなれば出来ますけれど。</p>
荒井教育委員	<p>給料は道から出るけど。町で考えたら出来ることもあるの？</p>
佐々木教育長	<p>町で人件費を見てくれるのなら可能です。</p>
荒井教育委員	<p>中学校でも言っていたけど、先生不足なんだって。道内？日本中？北海道だけの問題なの？</p>
佐々木教育長	<p>先生の数が足りない状況は、どこも同じだと思います。</p>
荒井教育委員	<p>先生の成り手がいない。</p>
村井町長	<p>資格はあるけれど、やらないという。</p>
荒井教育委員	<p>この豊浦町教育研究会のメンバーってどういう人たちがいるの？</p>
佐々木教育長	<p>町の先生方全員がこの研究会に入っています。</p>
荒井教育委員	<p>全員が入っているが、なかなか会議を開催するのが難しい。</p>
本所教育委員	<p>今、豊浦町の学校全部がインターネット会議できるの？</p>
佐々木教育長	<p>先生方は全部。共通のシステムを使っていますので。</p>

本所教育委員	大岸も礼文も？
佐々木教育長	はいそうです。先生方が自由に使用できる仕組みになっています。
荒井教育委員	目指すところはどこなの？9年間で。
佐々木教育長	例えば、さっき説明した義務教育学校をつくるとかですね。併設型の小中一貫、併設型の小学校、中学校、というものをこれは、こうしなければいけないというものではないです。やっぱり一番大切なものは、豊浦でやっているように小学校と中学校の学校間の連携というものをやって、やっぱり中1ギャップとか、そういうものを生み出さない。そういう学校を作っていきましょうということです。
荒井教育委員	これ次に関わるけど、学力との関係はないの？
佐々木教育長	これはあります。これは、後で出てきますけども、小学校と中学校が連携し合っているのと、小学校間で横のつながりをやっているの、いろいろな調査をしたときに、うちの町の例えば、国語や算数でどんなところが課題となっているのか学校から上がってきます。そうすると、うちの子ども達はこういう問題があるとか。そのためには、どういう風に教化していけばいいのか、豊浦町教育研究会などでいろいろ話し合いをして、それであれば、この部分に力を入れて継続して取り組んでいきましょう。そしたら、中学校の先生も小学校でこういう問題があるんだったら、中学校でもそれを底上げするようにする。課題がきちんとわかって、それを継続して取り組める。
村井町長	当面、今やっている小中一貫教育これについては非常に意義があると。いろんな不安なり、ギャップを埋めるには意義があるので、現状をまず継続すべきだという意見が多いということでもいいですね。それと、出来たら交流の機会を増やすこともその努力もしてほしいということよろしいですか。－全員了承－ 次の議題の小・中学校の学力状況報告について説明をお願いします。
佐々木教育長	－ 資料により説明 － 以上で説明を終わります。
村井町長	何かご意見などございませんか。
荒井教育委員	勉強時間が少ないってことは、テレビ等を見ている時間が多いということ。
佐々木教育長	それで、うちの学校としてもそういう子ども達の基本的な生活習慣を見直しましょうという形で2年前からこういうノーゲームデーという電子メディアとなるべく接触する時間を少なくしよう。家の人と会話をしよう。それで、去年ぐらいから学校行事の中で、毎月第1第3日曜日をノーゲームデーとして意識啓発を行って、家庭でも意識するような活動を行っています。ただ、なかなか結果としては出てきてはい

	ません。
荒井教育委員	ゲームをする時間が少なくても、スマホ等を触っている時間が多いの？
佐々木教育長	中学校3年生の傾向としては、そういうのがあります。
山下教育委員	ゲームみたいな一人だけでやっているそういうものよりは、誰かと関わることの方が良いことかなと思います。
本所教育委員	これ、学校側と父兄とのこういう時間だよとかなんとか全般的にも話しってというのは濃くならないのかな？やっぱり恐らく、親の目の届くところでゲーム等をやっているので親は関心がないのか、勉強をしなくてもいいと思っているような気もしているのだけれども。 だから先生方が一生懸命にしても、子どもは楽な方を選択するし、それがこの結果になっている。
荒井教育委員	そういうものを持っている率はどうなの？
佐々木教育長	資料の10ページに、携帯電話をもっている率があります。以前は全国に比べて持っている率は少なかったが、今は、小学生でも全国を上回っている状況になっています。中学校は常に高い状況です。所有率が高いということは、当然使用している時間も高くなる。
本所教育委員	携帯などでのトラブルというのは把握している。
佐々木教育長	あります。やっぱりメール等での悪口を言い合うとかそれが、まわりまわってきてこんな悪口を言っていたとか。 結局、わからないようにも思っているけど、中学生なので、いろんなつき合いがあるんで、他からその悪口を言っていたよと聞くことになって、そういうトラブルというのはあります。
本所教育委員	携帯を持って、いいこともあるけど、悪いこともあるよね。
荒井教育委員	毎年このテストはあるけれど、今の6年生と中学3年生の子の成績ということだよね。だから、顔を思い浮かべると、6年生はこういう子たちの中学3年生は、こういう子ども達で、やっぱり特徴はありますね。
佐々木教育長	豊浦町の学級規模が小さいので、学級の雰囲気は特に現れることになると思います。
村井町長	先生方は、当然わかっている。保護者の方々にこういう傾向ですので、直していかなければならないというお知らせみたいなのはやっているの？
佐々木教育長	この全国学力学習状況調査結果というのは、これが発表された後、保護者全体に行う場合と、その学年だけ結果を公表しております。
山下教育委員	この数字を見たときにネットとかもめごとで差が出たときに、保護者

	<p>の方から、例えば先生方がこの数字を見て、この教科が弱いとか、何かが弱いので改善するための話し合いというのは、逆に保護者側から見たときにこの担任が弱いとか、数字見たときにそういう指摘というのはありますか。</p>
佐々木教育長	<p>やっぱりそれは出てきます。保護者は、いろいろな情報を持っていますから、小学校は、あまり学力の部分ではなく、やっぱり人間関係の部分で、こういうトラブルが起きたのに、ちゃんと対応してくれなかったというのが多いですね。中学校になってくると、学習成績というのは、いろんな塾とかをやってきて、どこの学校と比較して教科の先生の教え方が悪いのではないかというのは出てきます。</p>
村井町長	<p>まだいろいろとあろうかと思いますが、今年初めて、平和教育として修学旅行も広島方面に行っていただいて、とわに一で平和教育記念講演を行いました。それについて、一言ずついただきたいのですが。私は、そこに行くだけでも価値があったと思っています。</p>
荒井教育委員	<p>来年も、修学旅行で平和教育、広島へ継続できるのですか。</p>
村井町長	<p>継続はしたいと思っています。</p>
村井町長	<p>他になれば、会議を終了したいと思いますが、よろしいですか。それでは、長時間におきまして、いろいろな貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。また、これからもお力添えを切にお願い申し上げます。本日は、ありがとうございます。</p>